

あいち病害虫情報 最新情報

平成29年 7月14日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

7月13日名古屋地方気象台発表の1か月予報によれば、平年同様に晴れの日が多い見込みです。また、気温は高いと予想されています。

いもち病

葉いもちの発生量は、7月上旬の巡回調査ではやや少ない状況です。このため、早期栽培での穂いもちの発生量はやや少ないと予想します。ただし、今後曇雨天が続く場合や常発地等では、穂いもちの発生に注意してください。詳細は、本日発表の「いもち病（葉いもち）情報第3号」を参考にしてください。

斑点米カメムシ類

県内各地に設置している予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数は平年並の状況が続いています。しかし、7月上旬の巡回調査では、発生量が水田内でやや多く、畦畔雑草で多い状況なので、適期に防除を実施しましょう。防除方法等詳細については、本日発表の「平成29年度病害虫発生予察注意報第2号」を参照してください。

ウンカ類

トビイロウンカは、6月下旬の巡回調査ではほ場での飛来成虫の生息を認めましたが、7月上旬の巡回調査では、捕獲されませんでした。また、予察灯では誘殺されていません。セジロウンカは、7月上旬の巡回調査で、県内全域で発生を確認しましたが、発生量は少ない状況です。詳細は、本日発表の「ウンカ情報第2号」を参照してください。

ダイズ・野菜類・花き類のチョウ目害虫

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並ですが、一部の地域で多い状況です。今後の発生動向に十分注意し、適期防除を心がけましょう。

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並ですが、豊田市や豊橋市では、平年よりかなり多く推移しています。また、5月の調査開始頃に西三河地域で誘殺数が多い状況でした。春先の誘殺数が多い年は、秋での発生量が多い傾向があります。ほ場での発生状況に注意し、早期発見、早期防除に努めましょう。

果樹の病害

ナシ黒星病の発生ほ場では、伝染源となる発病葉や発病果を除去して適切に処分するとともに、耐性菌の発生を避けるため、同一系統薬剤の連用を控え、異なる系統の農薬をローテーション散布しましょう。

モモ灰星病の発病果は伝染源になりますので、見つけたらほ場から持ち出し適切に処理しましょう。

ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイは、フェロモントラップにおける誘殺数はおおむね平年並ですが、安城市と西尾市においてやや多い状況です。7月以降は、本虫がナシ果実に食入する重要な時期になります。成虫の発生ピークから6日後頃が防除適期になるので、フェロモントラ

ップの誘殺状況を参考に、適期防除を心がけましょう。また、交信かく乱剤（コンフューザーNなど）を設置しているほ場で、7月以降に再度設置する予定がない場合は、収穫期間中に効果が低減し、被害が出る可能性があります。今後の発生動向に十分注意し、適期防除を心がけましょう。

チャノキイロアザミウマ

蒲郡市と南知多町のカンキツほ場に設置した黄色粘着板による成虫誘殺数はやや多い状況です。アメダス観測地点において有効積算温度を利用した成虫発生ピークの予測日は下表のとおりです。防除適期である成虫発生ピーク予測日を参考に防除を実施しましょう。

	愛西	南知多	名古屋	豊田	大府	岡崎	蒲郡	豊橋	伊良湖	新城	稲武
第3世代	7/10	7/12	7/7	7/12	7/8	7/12	7/11	7/12	7/10	7/15	8/4
第4世代	7/28	7/31	7/24	7/30	7/26	7/30	7/29	7/31	7/29	8/3	8/26
(前年)	7/24	7/25	7/18	7/24	7/19	7/25	7/23	7/24	7/23	7/29	7/29*
前年差	4日遅	6日遅	6日遅	6日遅	7日遅	5日遅	6日遅	7日遅	6日遅	5日遅	6日遅*
第5世代	8/14	8/17	8/10	8/16	8/12	8/17	8/15	8/18	8/15	8/21	9/22

各地のアメダス平均気温から予測。*稲武については、第3世代の前年ピーク日と前年差。

7月13日までは実測値を、それ以降は平年値（豊橋、大府は前年値）を用いて計算。

果樹カメムシ類

フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺数は今のところ平年より少なく推移しています。現在、チャバネアオカメムシはヒノキ球果などを餌として生育していると思われます。本虫がヒノキ球果を食べ尽くすと、餌を求めて果樹園へ飛来する恐れがあります。今後も果樹園への飛来状況に注意し、必要に応じて適期に防除しましょう。

なお、8月1日発表予定の「果樹カメムシ情報第2号」で、7月中旬のヒノキ球果におけるチャバネアオカメムシの生息状況等を掲載するので、参考にしてください。

トマト苗へのタバココナジラミの寄生を防ぎましょう！

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが露地で活発に活動する時期です。トマト栽培が周年化している産地では、育苗時におけるTYLCVの感染防止が重要です。タバココナジラミに効果のある粒剤を施用するとともに、侵入防止対策として、育苗施設の施設開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置しましょう。

アブラナ科野菜のコナガ、シロイチモジヨトウ

フェロモントラップにおけるコナガの誘殺数の多い地域があります。今秋作の育苗においては注意が必要です。ほ場をよく観察し、早期発見、早期防除に努めましょう。

フェロモントラップにおけるシロイチモジヨトウの誘殺数は東三河地域で平年と比べかなり多い状況です。今後の発生に注意しましょう。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、HP「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>）を参照してください。

問合せ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
TEL 0561-62-0085 内線471 FAX 0561-63-7820